

Q5

出生直後の赤ちゃんにBCG接種をすることは問題ありませんか。

A

生後何カ月から接種するかは法的な規定は従来からありませんでしたが、長年、「新生児期は避け生後3カ月から」とされてきました。

BCG接種のもっとも重い副反応に全身性（播種性）BCG感染症がありますが、新生児や生後1～2カ月児の場合、先天性免疫不全を有するかどうかの判断が困難であるため、免疫不全に気付かず接種をしてしまい致命的な全身性BCG感染症を生じてしまう可能性があります。発展途上国等の結核高蔓延地域では、乳児期早期に結核に罹患することの危険性が、先天性免疫不全児に接種してしまう危険性を上まわるため出生直後にBCG接種が実施されています。

また、新生児では腋窩リンパ節腫大が高頻度（26%、全例排膿）に見られたという報告もあります。

ただし、家族内に結核患者がいるなどの感染の危険性の高い場合は、新生児への接種が必要となることもあります。この場合は、免疫不全状態でないことの確認を含め健康状態を十分に確認してから接種することになります。